

第29号 (2002年度)

# 金沢国際親善ニュース



新たなる友情を誓い、握手を交わす山出 保 金沢市長と金 完柱(きむ わんじゅう) 全州市長  
[2002年4月]

金沢市姉妹都市交流委員会

# 全州 ■ 大韓民国



Jeonju, the Republic of Korea



伝統的景観に配慮して整備された全州市街

**提携** 2002年(平成14年)

**人口** 62万人

**面積** 206km<sup>2</sup>

「後百済」の都で、千年余の歴史を持つ古都で全羅北道の道都。国宝の豊南門や韓式家屋の保存地区など歴史遺産を数多く残している。周辺は豊かな穀倉地帯で、韓国の「食と文化の里」として知られ、王朝料理やピビンパップなどの食文化、伝統音楽パンソリに代表される国楽の中心地である。「韓紙」「合竹扇」などの伝統工芸品のほか、国際映画祭・スポーツ大会などを通じ、国際都市としての発展を目指している。

## 友情の新たな一歩

### 韓国・全州市と姉妹都市提携



市庁舎前に記念植樹を行う金沢・全州市長、市議会議長

2002年4月、大韓民国全州市が、新たに金沢の姉妹都市となりました。同年3月、金沢・全州市両市議会において、姉妹都市提携に関する議案が可決されたことをうけ、4月30日、金沢市を訪問した金完柱・全州市長が、山出保・金沢市長と共に、「金沢市と全州市の友好交流に関する合意書」に調印を行いました。

合意書調印に先立ち、末永い友好交流の発展を祈って、金沢・全州市の市長と川絨一・金沢市議会議長、李元植・全州市議会議長の手により、金沢市の市木・梅と全州市の市木・いちようが、市庁舎前に植樹されました。

これに引き続き、金市長、李議長より招待を受けた、山出市長、川議長らが、6月、全州市を訪れました。折しも、全州市ではサッカー・ワールドカップの開催中であり、金沢市代表団は、全州市が総力を挙げて準備を重ねてきた素晴らしい競技場と大会運営、世界の一流選手によるサッカーの国際試合を目の当たりにすることができました。

また、10月には、金市長がふたたび金沢を訪れ、堅

町・片町商店街の中心市街地活性化施策や、金沢市民芸術村、卯辰山工芸工房などの文化施設を視察しました。

全州市は、朝鮮王朝の始祖である李成桂を輩出した土地で、朝鮮王朝ゆかりの建物や品物が、現在も大切に保存されており、古都の雰囲気や今に伝えています。文化・芸能への関心も高く、韓国固有の紙(韓紙)工芸や、音楽にあわせて演じられる演劇・パンソリなどで殊に知られています。また、山海の幸に恵まれ、豊かな食文化を育んできた土地でもあります。このように、全州市はまちの特徴やまちづくりの目標の上で、金沢市と共通点が多く、姉妹都市提携を機に、様々な分野で互いに学びあう、実りの多い交流が期待されます。

## 韓紙伝統の技を披露

### 韓紙・和紙交流展開催



韓紙・和紙交流展オープニング

全州市より韓紙工芸作家らを招いて、「韓紙・和紙交流展」が開催されました。

「韓紙・和紙交流展」は、2002年9月26日から10月

2日の日程で、金沢市文化ホールで行われました。交流展では、金沢からは二俣など和紙産地の品が、全州からは(株)韓紙文化振興院所属の作家らの作品が、両市の伝統工芸品が美しく技を競い合いました。

オープニングには、李相七・(株)韓紙文化振興院理事長をはじめ、作品を出展した作家24名が会場を訪れました。テープカットなどの式典の後、韓紙工芸作家による製作実演や、製作体験教室が催され、一番新しい姉妹都市、全州市との文化交流に一役かいました。



互いの作品をじっくり鑑賞

## 共通の行政課題について視察 全州市職員来訪



金沢のまちづくりを視察する全州市職員

2002年12月、金是寛・全州市道路課長らの全州市職員が金沢市を訪れ、金沢市職員と、専門分野における視察、交流を行いました。

訪れた全州市職員は、土木、電気、林業など専門職員を中心とした7名。これに対し、金沢市側からも穴田英夫・用水みち筋整備課担当課長らが、日頃、取り組んでいる実務について説明した後、実際に、整備された用水が

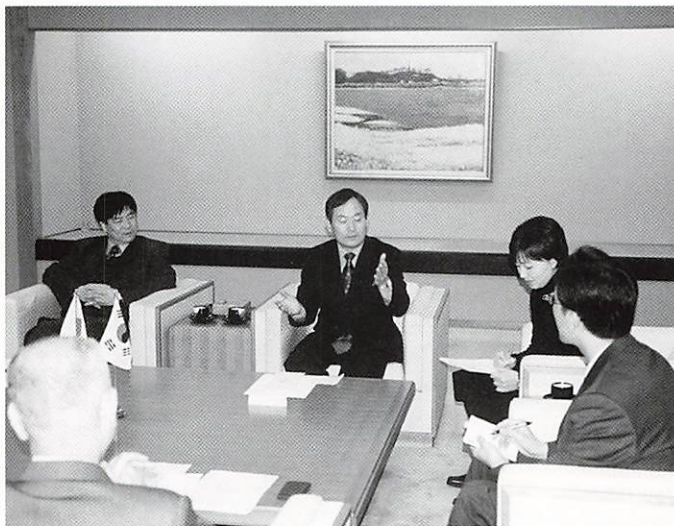
まちなみに潤いを与えている中心市街地の様子を案内しました。

まちづくりの最前線で働く両市の職員は、職務に関する率直な意見を交わしあい、行政分野における交流を深めました。

## 本場の味を金沢へ 全州市副市長ら来訪

2003年1月、全熙宰・全州市副市長らが金沢を訪れ、1月22日、金沢市内にオープンした全州ビビンパップ本店「ちょんじゅ」の開業式に出席しました。

全州市は、豊かな食文化で名高く、日本でも人気の韓国料理、ビビンパップの発祥の地として知られています。「ちょんじゅ」は、2001年、金沢で開催された国際食品見本市「ネクストフーズいしかわ2001」に、全州の企業が出展したことがきっかけとなり、新県庁周辺エリアに開店することとなりました。



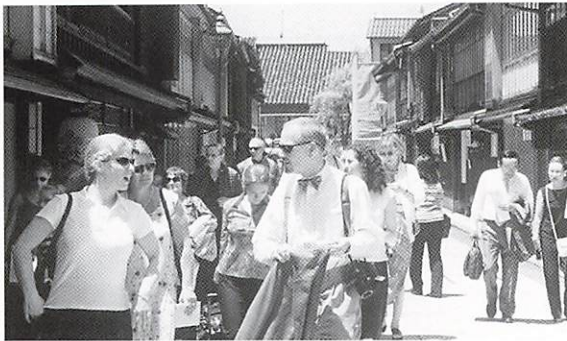
全熙宰・全州市副市長(左から2人目)



# バッファロー ■ アメリカ合衆国



Buffalo, U.S.A



トーマス・グリード氏(中央)とバッファロー市代表团

**提携** 1962年(昭和37年)

**人口** 30万人

**面積** 105km<sup>2</sup>

五大湖のひとつ、エリー湖の東にあり、ニューヨーク州西部の政治、経済、教育、文化の中心地。製鉄・製粉などの工業都市として発展した。「五大湖の女王都市」とも呼ばれ、アルブライト・ノックス美術館、1846年創立の州立大学バッファロー校や広大なデラウェア公園があるほか、著名な建築家フランク・ロイド・ライト設計の建物が6つ現存するなど、文化と学術のまちでもある。有名なナイアガラの滝は、北西25kmの所にある。

## 姉妹都市提携40周年記念 バッファロー市代表团来訪

金沢市とバッファロー市の姉妹都市提携40周年を記念し、バッファロー市代表団の一行が金沢を訪れました。トーマス・グリード・バッファロー市副市長とバッファロー・フィルハーモニー・オーケストラ副指揮者、ポール・フェリントン夫妻のバッファロー市代表団に、有志の友好訪問団を加えた20名の一行は、7月9日から順次、金沢に到着しました。

代表団一行は、ゆかたの着付けや抹茶などの日本文化体験や、温泉体験などを楽しんだり、市内で開催されている小学生のための能楽教室を見学したりしました。また、12日には、バッファロー市内の71スクールと姉妹校交流を行っている湯涌小学校を訪問しました。

湯涌小学校では、生徒が見事な和太鼓の演奏を披露して、一行をもてなしました。代表団からは、フェリントン氏が即興でピアノ演奏をし、これに応えました。終わりには、代表団から生徒一人ひとりに小さなプレゼントが手渡され、心温まる交流会となりました。

一行はバッファロー市を代表して、両市姉妹都市提携の功労者であるロバート・フラッシュャム氏の特別名誉市民証授与式に列席したり、時期を同じくして開催された、バッファロー市出身の陶芸家による作品制作「コモン・グラウンド・ワールド・プロジェクト・イン・金沢」に参加したり、多彩な行事に立ち会った後、15日に金沢を離れました。

## 平和と友好を祈って

### コモン・グラウンド・ワールド・プロジェクト開催

バッファロー市出身の陶芸家、ニール・テトコスキー氏による作品制作「コモン・グラウンド・ワールド・プロジェクト・イン・金沢」が、7月10日から16日にかけて開催されました。

今回のプロジェクトで制作された作品は、直径約2.5メートルの円形の陶土に、様々な年齢の100名の参加者が、渦巻き状に手形を押し入れていくというもので、平和と友好への思いが込められています。このプロジェクトには、山出保・金沢市長や、テトコスキー氏とも親交のある金沢在住の陶芸家、大樋年雄氏をはじめ、姉妹都市提携40周年を記念して金沢を訪れていたバッファロー市代表団メンバーや、バッファロー市内の学校と姉妹校交流を行っている湯涌小学校の生徒ら、両市の交流にゆかりのある人々も参加しました。

作品は、金沢美術工芸大学の協力により焼成され、金沢市内で展示される予定になっています。

## 友好のかけはしに感謝

### フラッシュャム氏に特別名誉市民証贈呈

金沢市とバッファロー市が姉妹都市提携40周年を迎えたことを記念して、当時、提携に尽力されたロバート・フラッシュャム氏に、7月13日、金沢市特別名誉市民証が授与されました。

フラッシュャム氏は1954年、金沢アメリカ文化センター館長として金沢に赴任しました。アメリカ文化センターは、米国が、文化交流や情報提供のために日本各地に設けた施設で、図書の閲覧サービスや各種講座の開催などを行っていました。フラッシュャム氏はここで6年間、館長を務められましたが、この間、加賀藩の歴史に深い関心を持ったフラッシュャム氏は、県内を精力的に調査し、加賀藩の政治経済・教育制度に関する著述活動を行いました。金沢を離れた後は、日米の各地で要職を務められましたが、リタイア後は再び金沢に戻り、現在は金沢市内に在住していらっしゃいます。

フラッシュャム氏は、幼少の頃、バッファロー市に在住していた縁もあり、金沢市が初の姉妹都市として、米国の都市との提携を希望した際、バッファロー市との提携に向けて、多大なご尽力をなさいました。

# イルクーツク ■ ロシア連邦



Irkutsk, the Russian Federation



イルクーツク空港にて 金沢市中学生親善団

**提携** 1967年(昭和42年)

**人口** 54万人

**面積** 302km<sup>2</sup>

バイカル湖(世界遺産)の南にある中部シベリア最大の都市で、イルクーツク州の州都。天然資源が豊かで、機械、木材、食品などの工業が発達しているほか、高級毛皮製品などの伝統産業も盛ん。アンガラ川沿いに広がる市街は、美しく落ち着いた雰囲気から「シベリアのパリ」とも呼ばれる。市内には、イルクーツク大学をはじめとした学術施設、先端技術の研究所や工場などが数多くあるほか、市民の文化・芸術活動も盛ん。

## 将来の交流促進を約束！ ヤクボフスキー市長来沢 — 金沢の春 —

2002年4月1日から翌2日にかけて、ヤクボフスキー市長が来訪しました。今回の訪問は、東京で行われた「ロシア・イルクーツク州セミナー」(主催：イルクーツク州・JETRO等)に参加するために来日した同市長が、わざわざ1人で金沢へ足を運んでくれたことから実現したものです。滞在は1泊2日の短い時間でありましたが、山出市長との懇談では、今後の交流の促進に向けお互いに協力することを誓い合うなど、両市の絆を一層深めることとなりました。

また、市内の視察も行い、ひがし茶屋街や桜満開の兼六園などを訪ね、姉妹都市金沢の春を満喫しました。

## 金沢で熱戦！ 女子バレーボール選手団来沢 — 友好交流試合 —

2002年11月18日から25日まで、ロジナ・ガリーナ・ドミトリエブナ・イルクーツク市社会住民保護局長を団長とする女子バレーボール選手団一行13名が金沢を訪れ、20日に県立金沢商業高校、21日に大和女子バレーボール部と交流試合を行いました。日程変更の影響による調整不足もあり、残念ながら金沢商業高校との対戦(会場・同校体育館)は、セットカウント「0-2」で敗退しましたが、大和バレーボール部との対戦(会場・中央小学校体育館)は、同「2-0」で快勝し、対戦成績を1勝1敗の五分としました。また、同団は、交流試合のほか、市内や能登方面の視察のほか、着付けやお茶などの日本の伝統文化を体験し、姉妹都市金沢で様々な経験をした後、帰国しました。

なお、同団は、当初11月15日から22日の日程で滞在し、18日に「金沢市民バレーボール大会」開会式において金沢商業高校と、翌19日に大和バレーボール部との試合を市総合

体育館で行う予定でしたが、ロシア国内の悪天候による航空便の混乱が原因で、日程が変更となりました。

### 【試合詳細】

11/20 イルクーツク市 0 [16-25 / 15-25] 2 金沢商業高校

11/21 イルクーツク市 2 [25-14 / 25-19] 0 大和バレーボール部

## 胸一杯の思い出！ 金沢市中学生親善団訪問 — イルクーツク市の夏 —

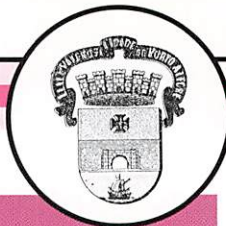
2002年7月30日から8月6日まで、平田敏雄・金沢市総務部長を団長とする中学生親善団22名が、イルクーツク市を訪問しました。本年は、イルクーツクへの直行便がなく、ハバロフスク経由となったため、イ市での滞在期間は、例年より2日間短くなりましたが、イ市側の努力もあり充実した訪問となりました。団員は、宿舎となったサナトリウム「母と子」や第80学校訪問で、現地の中学生らと交流するとともに、市内視察やバイカル湖へのエクスカーションを行い、姉妹都市への理解を深めました。また、ホームステイ体験では、ロシアの生活様式を知るとともに、受入家庭の温かい愛情に触れ、別れ際には、多くの団員が日頭を熱くしていました。姉妹都市イルクーツク市で様々なことを体験した後、団員は、たくさんの思い出を持って金沢市へ戻りました。

なお、同団には、環境専門家である新村光秀・金沢市環境保全課担当課長と就学前教育専門家の堅田光彩恵・光ヶ丘保育所主査も同行し、それぞれイ市の関係施設の視察やイ市の専門家らとの意見交換を行いました。



スポーツは言葉を超える！

# ポルトアレグレ ■ ブラジル連邦共和国



Porto Alegre, the Federative Republic of Brazil



ポルト・アレグレ市内サン・ペドロ劇場にて 加賀宝生ブラジル友好訪問団

**提携** 1967年(昭和42年)

**人口** 138万人

**面積** 497km<sup>2</sup>

ブラジル南部最大の都市で、リオグランデ・ド・スル州の州都。豊かな農牧地帯とリオデジャネイロに並ぶ良港を持ち、米、ワイン、たばこ、畜産物などの生産のほか、木材、毛織物、金属等の工業も盛ん。四季ははっきりしていて、グワイブ川沿いに広がる市街は、美しいイタス湖や街路樹に彩られる。まちの入口では、この地のシンボルのガウショ(カウボーイ)の肖像が訪れる人々を出迎えている。

## 加賀宝生ブラジル友好訪問団、ポルトアレグレ公演

金沢能楽会の会員を中心とした「加賀宝生ブラジル友好訪問団」の25名が、ブラジル・ポルトアレグレ市などを訪問し、能の披露や能をわかりやすく紹介するワークショップの開催などを行いました。

一行がポルトアレグレ市に到着したのは1月19日。20日には、市内のアラウジョ・ヴィアナ円形劇場で、「能の秘密を教えましょう」と銘打ったワークショップを開催しました。三千人以上の市民が訪れたワークショップでは、団員が謡、囃子などを実演しながら、解説を行いました。

また会場のお客様から、囃子の楽器演奏に挑戦する参加者を募ると、多くの希望者が列を作る場面も…。

21日の演能は、ポルトアレグレ市内でも最大の規模と格式を誇るオペラハウス、サン・ペドロ劇場で開催されました。サン・ペドロ劇場では、舞囃子や仕舞、能「羽衣」などが披露され、要所では、ポルトアレグレ在住の大学教授で能の研究者であるパオロ・ジッキ氏が袴姿で舞台上に上がり、丁寧な解説を行いました。

一行は22日にはサンパウロでもワークショップの開催、演能を行い、26日に帰国。また、訪問団にはポルトアレグレ出身の国際交流員、サントス・ジルベルト氏も同行し、様々な手配や通訳など、故郷に錦を飾る大活躍でした。

# ナンシー ■ フランス



Nancy, the French Republic



交換留学生の柳井 睦さん(左)とクリスチャン・ドミニク・キューナンさん(右)

**提携** 1973年(昭和48年)

**人口** 10万人

**面積** 15km<sup>2</sup>

フランス東部の中心都市で、12世紀中頃からロレーヌ公国の都として栄えた。機械、織物、クリスタルガラスなどの産業が発達しており、20世紀初頭の芸術運動アール・ヌーボー発祥の地としても有名。現在は、学生数3万人の学術都市として、また、国際的な演劇祭や、音楽祭、国立バレエ団がある芸術都市として発展している。スタニスラス広場ほか世界遺産に指定されている。

## ナンシーとの留学生交換、歴史を重ねた15人目!

ナンシー市と本市の間で、1973年から続いている留学生の交換事業。2002年は1年間の留学を終えた、金沢からの学生が帰国し、入れ替わって、ナンシー市からの留学生が、本市での生活をスタートしました。

金沢から15人目の交換留学生として、ナンシー市の国立ナンシー美術学校で1年間の勉強を終えて帰国したの

は、柳井睦さん(金沢美術工芸大学)。フランス語の向上はもちろん、美大で専攻する彫刻以外にも、幅広くフランスの美術に触れて、多くの成果を日本に持ち帰りました。

入れ替わって、ナンシーからの15人目の留学生として金沢を訪れたのは、国立ナンシー美術学校で学んだ、クリスチャン・ドミニク・キューナンさん。日本文化に直接触れて、日本独特の「間」の表現を学ぶため、金沢美術工芸大学での勉強をスタートさせました。

# ゲント ■ ベルギー王国



## Ghent, the Kingdom of Belgium



ゲント市内の鐘楼群

**提携** 1971年(昭和46年)

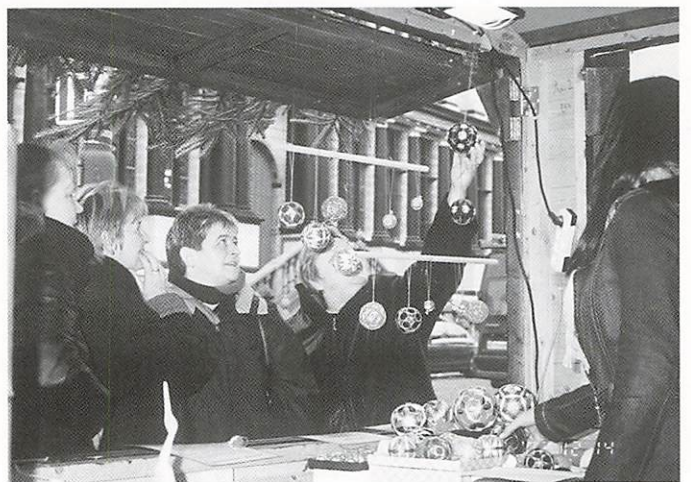
**人口** 23万人

**面積** 156km<sup>2</sup>

フランダース地方の中心都市で、今も中世の面影を色濃く残す芸術・文化のまち。別名「花の都市」とも呼ばれ、花の博覧会「ゲント・フローラリア」は世界的にも有名。ゲント港はヨーロッパ屈指の内陸港で、繊維、鉄鉱などの産業が発達した。1816年創立のゲント大学やゲント美術館のほか、多くの博物館や旧跡があり、中でも、鐘楼やベギン会修道院などは世界遺産に指定されている。

## ゲントからの留学生、 金沢で企業研修！

ゲント市からの実務研修生、メラニー・ヴァンデケルクホープさんが、2002年4月から6月の3ヶ月間、本市で研修を行いました。昨年、山出市長が姉妹都市提携30周年を記念してゲント市を訪れた際に、ゲント市のベーク市長からの依頼に応え実現しました。メラニーさんは、ゲント大学を経て、メルカトル上級学校で日本語学を履修しており、日本語を使った実務研修を行うために来訪しました。金沢市役所では、日本の地方行政機構について、また、市内企業の明和工業株式会社では、実際に民間企業での業務をととして、日本の会社組織について学びました。6月19日には、研修の締めくくりとして、明和工業株式会社の北野社長とともに山出市長を訪ね、充実した研修の成果を報告しました。



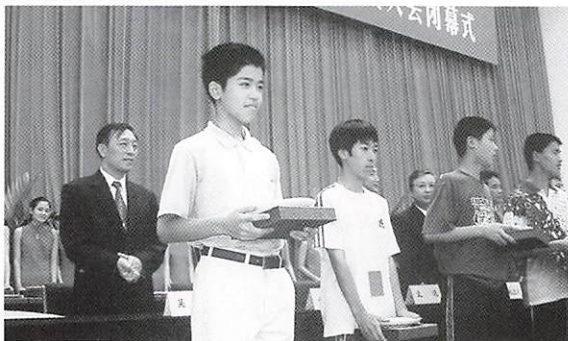
美しい手まりはゲント市民に大人気

## 金沢市伝統手工芸団、 ゲント市クリスマス市場へ

ゲント市の中心部、聖バーフ教会前広場では、クリスマス前の約10日間、クリスマスにちなんだ品物の販売を行うクリスマス市場が開催されます。このクリスマス市場に招かれた金沢市伝統手工芸団が、2002年12月11日から26日にかけて、ゲント市を訪問しました。この団は姉妹都市提携30周年を記念して、昨年派遣予定でしたが、同時多発テロの影響を受け、今年実現することとなったものです。開催期間の前半は、塚野良平さんが「竹細工」、高原暁子さんが「加賀てまり」、米山洋子さんが「加賀繻」を実演し、また、後半には、山科節子さんが「折り紙」、北民子さんが「加賀毛針」を披露しました。日本の伝統手工芸を間近に見て、その工芸品を購入できる数少ない機会とあって、ゲント市民から高い関心を集めました。ベルギーの国営放送や、現地新聞にも取り上げられ、金沢と、金沢の伝統文化をさらに知ってもらう機会となりました。



研修成果を報告するメラニー・ヴァンデケルクホープさん(右から2人目)



日中友好交流都市中学生卓球交歓大会、閉会式

**提携** 1981年(昭和56年)

**人口** 210万人

**面積** 1650km<sup>2</sup>

約2500年前、「呉」の国の都として築かれた古都。温かな気候と美しい自然に恵まれ、古くから景勝の地として知られる。美しい庭園と寒山寺などの名所旧跡が数多く、拙政園や留園など9カ所もの庭園が世界遺産に指定されている。食の地としても有名で、「魚と米の里」と呼ばれているが、近年は、シルクなどの特産品のほか、近郊に日本企業を含む多くの外国企業が進出し、めざましい経済発展を遂げている。

### 加賀百万石時代絵巻を堪能

2002年6月7日から10日まで、黄俊度・蘇州市人民代表  
大会常務委员会主任(蘇州市議会議長)を団長とする蘇州市友  
好代表団5名が、第51回百万石まつりにあわせて金沢を訪れ、  
百万石パレードをはじめ各種まつりの行事を堪能しました。

一行は、全市をあげてまつりをお祝いする雰囲気で大変  
感銘を受けた様子で、夜、市民とともに「百万石踊り流し」  
の輪の中に加わったり、幻想的な雰囲気のもと金沢城公  
園三の丸広場で催された「百万石薪能」を見学したりと、  
大変貴重な時間を過ごしました。

### ようこそ！ 蘇州市の中学生の皆さん

両市の未来を担う青少年による相互交流の一環として、  
2002年8月22日から26日まで、項建華・蘇州市教育局  
監察室主任を団長とし、中学生13名を含む蘇州市青少年  
使節団18名が来訪し、金沢の夏を楽しみました。

一行は、金沢滞在中、蘇州市に姉妹校を持つ市立北鳴中  
学校を訪問、温かい歓迎を受けて、部活動をはじめ日本の  
学校生活の一端を垣間見ることができました。また、兼六  
園、金沢城公園等の見学をとおして、金沢の文化を知ると  
同時に、バドミントンによるスポーツ交流にも汗を流しま  
した。そして、何より貴重な経験となったのは、ホームス  
テイをとおして、日本の生活様式の理解を深め、日本のお  
父さん・お母さんができたことです。わずか1泊2日のホ  
ムステイではありましたが、帰り際には別れを惜しんで涙  
する姿があちらこちらで見受けられました。蘇州市の中学  
生団員は、大変得難い、貴重な夏休みを経験できました。

### スポーツでつなぐ友情 日中友好交流都市中学生卓球交歓大会

金沢の中学生卓球選手男女各1名が、8月2日から8

月5日の日程で、中国・北京市内、オリンピックセンター  
体育館で行われた「日中友好交流都市中学生卓球交歓大  
会」に参加しました。この大会は日中国交正常化30周年  
を記念して開催されたもので、姉妹都市同士が合同チ  
ームを結成して、99チームが参加。金沢の中学生は、友好都  
市の蘇州市の中学生とともに出場しました。

八手壽・金沢市土木部長、中村秀治・金沢市立北鳴中  
学校教諭をはじめとする一行5名は2日に北京に到着。  
金沢-蘇州チームは、稲沢-赤峰チーム、柏原-新郷チ  
ームと対戦しましたが、両試合ともセットカウント3-2  
で敗れ、惜しくも予選リーグ敗退となりました。また、  
5日、人民大会堂で催された閉会式では、すべてのチ  
ームに参加章が授与されました。

一行は6日には蘇州市を訪問。朱永新・蘇州市体育担  
当副市長らの歓迎を受けました。

言葉や文化の違いを超え、短い日程の中で友好を深めた  
両市の中学生卓球選手たち。試合は残念な結果に終わり  
ましたが、スポーツの力を実感した交歓大会となりました。

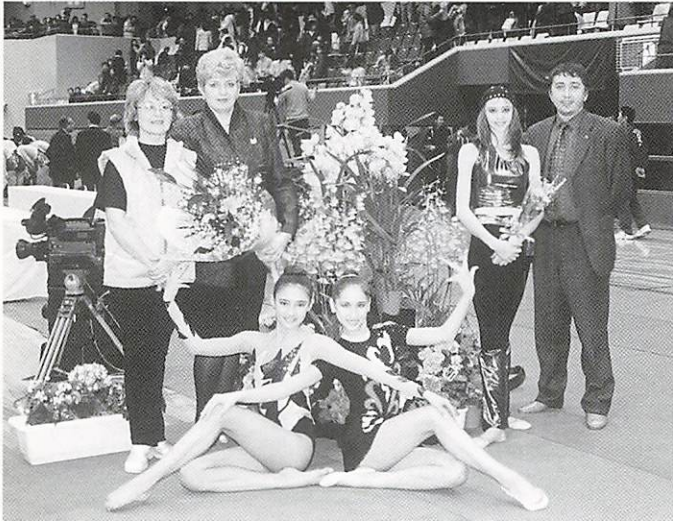
### 金沢のまちづくり施策を世界に向けて発信

2002年10月27日から31日まで、蘇州市で開かれた  
「2002年蘇州国際姉妹都市市長サミット」に、赤穂敏広・  
金沢市助役他2名が参加しました。赤穂助役は、市長の  
代理として蘇州市や、蘇州市の11の姉妹都市の市長、副  
市長を前に、「都市の近代化と古いまちなみの保存」をテー  
マに、講演・プレゼンテーションを行い、本市の世界都市  
構想・まちづくり施策を世界に向けて紹介しました。

伝統の保存と都市の近代化の両立という共通の課題を  
抱える蘇州市の楊衛沢市長は、本市の発表内容に強い関  
心を持ち、共に歴史文化の保存を掲げる近代都市として実  
質的な相互交流の継続を誓い合いました。

# トピックス 2002

TOPICS

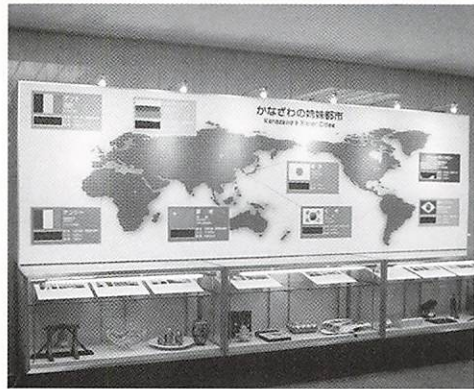


## 姉 妹都市展示コーナーが 新しくなりました

市庁舎1階エントランスホールの姉妹都市展示コーナーが新しくなりました。

これまでも、エントランスホールでは、姉妹都市の紹介や姉妹都市から寄贈された記念品などの展示を行ってきましたが、このたび、新しく韓国・全州市のコーナーを設け、全体をリニューアルしました。

新しい展示では、世界地図を大きく表示し、金沢市の7つの姉妹都市の位置と、現在の時刻が一目でわかるようになっています。また、現在は、2002年9月に開催された「韓紙・和紙交流展」に出展された、韓紙の作品を展示しています。これからも7つの姉妹都市との交流をテーマに、様々な展示を行っていく予定です。



市庁舎にお越しになったときは、ぜひ、ご覧ください。

## ご冥福をお祈りいたします。

金沢市姉妹都市交流委員会会長で、金沢市議会議長の川紘一氏が、2003年2月18日に逝去されました。川会長は、本年4月の全州市との姉妹都市提携に尽力され、6月には全州市、7月には姉妹都市提携40周年を迎えたバッファロー市を訪問されるなど、精力的に姉妹都市交流の促進に取り組んでこられました。心よりご冥福をお祈りいたします。

## 「ル」 ネット冬まつり 新体操選手団来沢 —華麗な演技を披露—

2003年1月31日から2月8日まで開催された「金沢ネット冬まつり2003」にあわせて、1月29日から2月5日の日程でエーセヴァ・ジャンナ・ウラジミロヴナ・イルクーツク市市議会議員を団長とするイルクーツク市新体操選手団一行7名が来訪し、2日に市総合体育館で行われた新体操演技会で素晴らしい演技を披露してくれました。今回の演技会は、昨年と同様にブルガリア選手団や全日本選手団らも参加しており、新体操競技の人気の高さもあって、朝早くから多くの観客が詰めかけ、会場は熱気に包まれました。演技会が開始されると、観客は、目の前で繰り広げられる選手らの繊細かつ華麗な演技、ダイナミックな動きに魅了されました。演技会終了後も、選手に対して大きな拍手や声援が送られていました。

また、同団は、浅野川小学校へ訪問し、児童たちとの交流を深めるとともに、市内視察などで金沢の伝統文化を体験しました。

# 国際交流員

ジェニファー マーキッチさん  
(オーストラリア・パース出身)



G'day! 西オーストラリアの州都パース出身ジェニファー・マーキッチと申します。ジェンと呼んでください! 私は2001年に来日し、1年間輪島高校の英語の教師として働きました。そして、去年の8月から金沢国際交流財団で、国際交流員という仕事をしています。金沢の仕事は本当に面白いです。なぜなら、色々な人と交流ができるからです。「オーストラリア料理教室」、「国際交流理解講座」、「Lunchtime English」など日本人に対しての講座だけではなく、「金沢を学ぼう」や「巻寿司から日本を学ぼう」などの外国人への講座も企画でき、私にとって、とてもやりがいのある仕事となっています。金沢で私は忘れない思い出が2つあります。1つは国際交流まつりで、私がステージでライブをした時、近くに座っていたかわいなお女の子の顔です。もう1つは「金沢を学ぼう」の時、元気いっぱい喜んでいた外国人の顔です。これからもっとよい思い出をこの街で作っていきたいとおもいます。

洪 軍さん  
(中国・蘇州市出身)

ニーハオ!  
去年4月、中国の蘇州市から来た国際交流員、洪軍と申します。

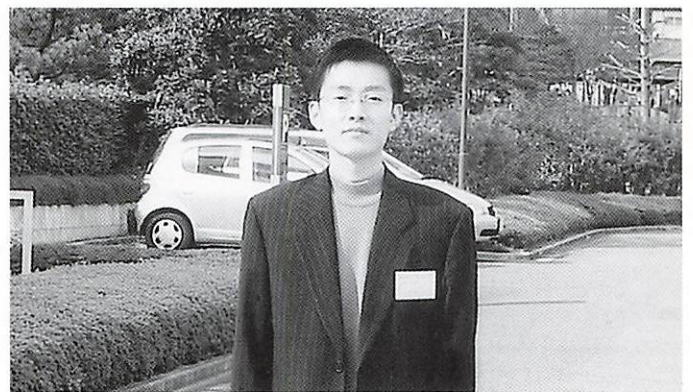
去年の冬は例年より早くやってきましたので、今年の春も早く訪れてくるでしょう。帰国の前、一度満開の桜を見

たいという気持ちでいっぱいです。自然に恵まれる金沢で、春夏秋冬の彩りを満喫するのは心も豊かになれると思います。

国際交流員にとって、こうした地元の独特な伝統や文化を体験するだけでなく、市民の皆様々に自国の状況を紹介するのも、大切な仕事の内容の一つです。したがって、私はいつも積極的に学校訪問や理解講座などに参加していました。もちろん、参加者によって話題も異なっています。料理、言語のような身近な話題もある一方で、経済や教育などちょっと難しい内容も触れました。こんな事業を行うたびに、それぞれの参加者から各々の感想を、活発に提出してもらいました。結局は時間が足りないのは普通です。一般の日本人は中国に対して、強い興味を持っていることを実感しています。これは単なる教えるだけではなく、お互いに交流できるイベントだと理解しています。国際交流事業をこんな親しい形で実現すれば、素晴らしい効果をおさめることができると信じています。

これから、蘇州に帰った後も、引き続き国際交流のため努力していきたいと思います。金沢の方々、ぜひご協力をお願いいたします。

では、今度は蘇州で会いましょう!



ローズマリー ドンクさん  
(ベルギー・ブリュッセル出身)

ベルギーの首都、ブリュッセルからまいりましたローズマリー・ドンクと申します。おととしの8月から金沢市国際課で国際交流員として働かせていただいて、今年も迷

# の紹介



わず再契約することにしました。

金沢での2年目に、一番印象的だった仕事は、金沢の伝統工芸の代表団と一緒にベルギー・ゲント市に行ったことでした。姉妹都市交流の行事の一つとして、金沢市の職人が、ゲント市のクリスマス市場に参加したのです。金沢の伝統文化を同国人(ベルギー人)に味わってもらうのは、とても面白かったです。ベルギー人にとって、金沢の文化はとても魅力的だったようです。子どもたちは竹で作ったおもちゃに熱中し、加賀手まりは飛ぶように売り切れました。

私も、これからも金沢で、生け花や温泉、スノーボード、日帰り旅行など、ベルギーではできないことを、楽しみながら一生懸命、続けたいと思います。今年もよろしくお願ひします。



## ジルベルト サントスさん

(ブラジル・ポルトアレグレ市出身)

今年の1月に金沢能楽会の「加賀宝生ブラジル友好訪問団」と共に祖国のブラジルに行ってきました。ポルトアレグレ側の責任者との最初のやりとりからポルトアレグレ市とサンパウロ市で実現した演能までは、実に1年以上の月日が経過しました。特に去年の10月から本格的な準備が始まったため、大変忙しくなりました。朝から夜遅くまで、翻訳や向こうとの連絡に追われ、まるで時間との戦いでした。

いよいよ出発日がやってきて、25人の団員がわくわくしながら、真冬の金沢を去って、真夏のブラジルに向かい

ました。24時間の長旅の後、無事にリオデジャネロにつきました。12時間の時差もあり、食べ物の違いもあり、ハードスケジュールで体調を壊さずに、皆がそれぞれ活躍できるかは心配でした。しかし、全員が最後まで活発に活動しており、私も元気づけられました。

ポルトアレグレ市のアラウージョ・ヴィアナ円形劇場で開催された能楽に関するワークショップには、能の幽玄の世界に触れるため、約3,500人もの観客が詰めかけてきたことは予想外でした。翌日のサン・ペドロ劇場の演能では、同じ時期にポルトアレグレで開催されていた「第3回国際社会フォーラム」参加者や市民などの600人が能「羽衣」に魅了されました。引き続き、サンパウロ市での公演も大好評でした。

金沢で2年間国際交流員として勤めており、様々な国際的な行事に協力させていただきましたが、今回のイベントが一番印象的でした。十日間の一行の共同生活を通じて、まるで家族のような絆ができました。しかも、ポルトアレグレと金沢との友好関係が強まったため、努力した甲斐があったと思います。

私は、今から8年前に、金沢からの大きな代表団がポルトアレグレを訪問した時、滞在中にお手伝いしたことがあります。当時、将来運命のいたずらで、金沢に来るとは夢にも思いませんでした。来日して、金沢で働くことになったのは、確かに縁があったに違いありません。

帰国した後も、金沢とポルトアレグレの交流に末永く協力したいと思います。





第29号(2002年度) 2003年3月 発行  
金沢市姉妹都市交流委員会  
事務局：金沢市都市政策部国際課  
TEL 076-220-2075 FAX 076-220-2069  
E-mail : kokusai@city.kanazawa.ishikawa.jp